

二〇二六年五月九日

母の日や律儀に届く鉢の花
高樓の視界を切りし飛燕かな
新緑の六甲連山パノラマに
薫風や立ち漕ぎで行く上り坂
天蓋は楓若葉やの散策路
風涼しパラグライダー宙天へ

二〇二六年五月八日

若楓一望カフェの特等席
記念樹の楠の若葉の頼もしき
軽やかに坂のぼりゆく白日傘
蜜蜂の羽音がハモるハーブ園
撮り鉄の大砲並ぶ駅薄暑
吟行す谷戸田はいまし竹の秋
全開すモデルハウスに若葉風
もてなしの新茶にいとま言ひ難し

二〇二六年五月七日

芍薬の画より抜けでし艶つぷり
湧水に沿ひし木道楽涼し
パンクして押し行く二輪道薄暑
無聊なる一人の窓辺花みかん
巢立鳥踏鞴踏みては翔たんとす
小物鉢ピンセットもて草を引く
玉のごともろ手に受くる岩清水
はらはらと風の意に沿ふ竹落葉
薫風に歩数の延びる朝散歩

二〇二六年五月六日

玉の日に芍薬おちよぼ口開く
万緑を淵に湛へし鏡池
星あつめてふ名肯ふ四片かな
大蛇めく走り根四方に大夏木

みきえ うつき せいじ 伸枝 むべ 花茗荷
むべ よし女 風民 やよい せいじ むべ 花茗荷
澄子 康子 澄子 康子 澄子 康子
やよい

まほろばのくづれ土塀に柿若葉
大輪のいまし佳境や鉄線花
谷渡り下山途中の背なで聞く
虚子眠る雲居を仰ぐ春風裡

二〇二六年五月五日

崩御せるとくに散華白牡丹
緑陰を縫ひて蛇行す小川かな
舫ひ綱ときて出船や波涼し
鳥語聞く穏やかな今朝清和かな
村挙げて大綱引や子供の日に
宙探るやに戯るる藤の蔓
劍玉の技を伝授す子供の日
ティータイム青葉若葉の庭椅子に

二〇二六年五月四日

シャワーめく若葉を透かしくる光
よしとせるピフォアフター草を刈る
連隊のごと肅々と夏の雲
白波の荒瀬を掠め夏燕
玉砕のごと来て返すつばくらめ
病みぬけし母と肩寄せ草引きぬ
葡萄の芽空へ空へと行きたがる
吊り橋の足下を埋む谷若葉
ローカル線パノラマのごと窓若葉

二〇二六年五月三日

手水舎に風鈴の和す風の道
尾根ゆけば吹き上ぐ風の薫りけり
水底にゆらめきやまぬ若葉影
伽羅蔦を朱塗りの椀に盛り付けぬ

もとこ みきえ 千鶴 勉聖 澄子 むべ 風民 風民
うつき 山椒 山椒 山椒 山椒
花茗荷 あひる 山椒 山椒
うつき 千鶴 千鶴 千鶴
なつき 風民 風民 風民
せいじ せいじ せいじ せいじ
なつき 愛正 愛正 愛正
康子 康子 康子 康子
風民 風民 風民 風民

毎日句会みのる選・二〇二六年五月二日